

集中連載

アメリカ考「現」学

世界一の消費大国



ポートランド

オレゴン州

店や商品に込められた 豊かなライフスタイルに学ぶ

商い創造研究所 松本大地

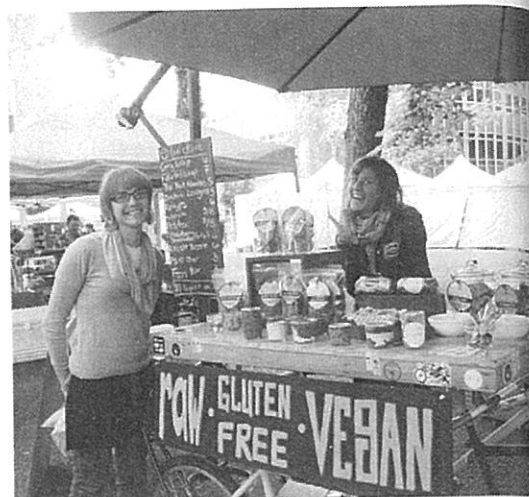
「全米で最も住んでみたい都市」「全米で最も環境に優しい都市」「最も自転車で移動しやすいアメリカの大都市」「全米で最もおいしいレストランが集まる都市」など、数多くの高評価を集める生活創造都市、ポートランド。その現在をレポートする。



1992年13店でスタートしたファーマーズマーケット。現在では250店を超え、街のシンボルとしてローカルファーストの食生活を支えている



安全・安心な食材の提供は、シェフとサプライヤーと生産者の協力が欠かせない



個性的な商品やワゴンがファーマーズマーケットの楽しさを増幅する。グルテンフリーなど健康重視の商品も多い



無料で引き取られた中古の建材が並べられる店内。ショップのインテリアなど新たな活躍の場を与えられていくのが、ポートランドのライフスタイルだ

NPOで運営される「ザ・リハビリディング・センター」では、廃棄されたモノをテーマやコーナーで整理し、販売する。「クリエイティブ・リユース・アイデアズ」という名の共同掲示板を設け、リユースのアイデアや情報を共有できるようにしている



「クオリティ オブ ライフ」という恵まれた環境で仕事や生活を楽しむ豊かなライフスタイルが育まれ、新しい生活文化が生まれる。

この街で注目される業態や店舗を紹介しよう。

そうしたライフスタイルの実践を通じて、さまざまな局面で「共存」の関係性がつくられている点も特徴だ。中心市街地と自然や農地を守る郊外、古い建物と新しい街並み、ナイキのような大企業と個性的なショップ、大人と子供、そして過去と未来もうまく共存している。

ポートランドで暮らす人を「ポーターランダー」と呼ぶが、彼らは健康的な暮らしや豊かな時間の使い方、おいしい食生活を追求することで知られる。また、環境に配慮した社会づくりやコミュニティ活動への参画にも積極的である。

さらに、ここ数年は毎週400人程度の人が移り住んできておりといわれ、定住人口も増え続ける全米で最も注目される都市である。

米国西海岸オレゴン州の人口60万人の街、ポートランド。この地に今、米国内だけでなく日本も含め世界中から観光客が訪れている。

美食の街の象徴 ファーマーズマーケット



5つのエリアで毎週開催されているファーマーズマーケットには、250以上の近隣農家が参加し、新鮮で安全な有機野菜や果物、加工品を販売している。もはや週末イベント的なマーケットではなく、日常生活になくてはならない存在となっている。

これらファーマーズマーケットの質

廃棄されたモノをテーブルやインテリアで使い、サイドウエーブコーヒーとして人気の高い「COAVA」の店内

シューズ専門店「KEEN」では、古い什器や廃棄された交通標識、サインをリデザインしてインテリアにしている。東京・原宿にも出店している。

的向上を支えているのが、ポートランド在住のレストランシェフと地元スーパリーなどのサプライヤー、生産者の三者が集まる「シェフ・コミュニティション」の存在だ。

そこでは、どのような生産品を消費者やシェフは求めているかが語られ、逆に生産者からも要望や提案があり、お互いの信頼に基づく良質なモノづくりを支え合う仕組みがある。

また、この街には地域産品、地元商

業者を優先するローカルファースト志向が定着している。地産地消のファーマーズマーケットは街のシンボルとなり、ローカルファーストは食に限らずファッションやアート作品などにも広がりを見せ、雇用や税収増といった地域経済循環増につながる仕組みとなっている。

究極のリサイクル業態 ザリビルディング・センター



ポランティアの手でスタートしたNPOが運営する廃材再利用センターである。改装や解体で不用になった家具、窓、ドア、バスタブ、タイル、照明器具、金具などを無償で受け取り、玄関ドアコーナー、キッチンコーナー、ランプシェードやドアノブなどの小物、引き出しや家具、材木などに区分けして販売している。

廃棄物処理に多額の費用が掛かる時代、新しい再利用ビジネスとして日本でも可能性は高い。昨年、日本の飲食店オーナーと店舗デザインの責任者を案内したところ、「店舗の世界観を表現するツールとして、このドアも、この照明器具も手に入れたい」という声が聞かれた。

またポートランドでは、BGMもレ

コードやカセットの方がCDよりも味があるといった価値観があり、カフェでは長年使われたスクールチェアやテーブルは味があつていいと取り入れている。

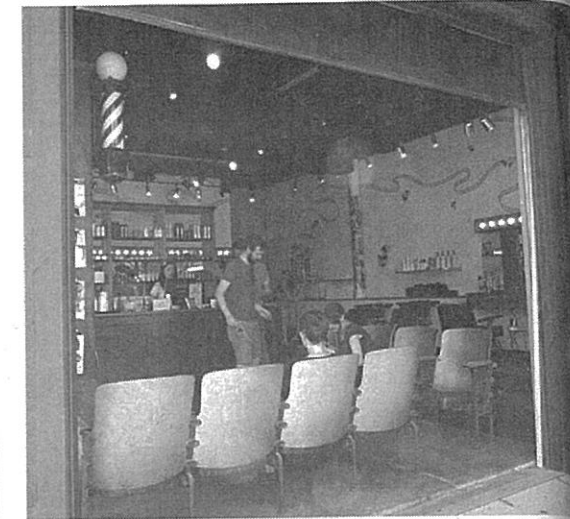
決して一時的なトレンドではなく、古いものの価値を発見し、古いものに戻った方がクールであるという価値観が強く根付いている。廃棄されるものが再び輝く場所で使われることは賢いことで、素敵なことである。

サイドウエーブコーヒーに ドライブスルーの新業態



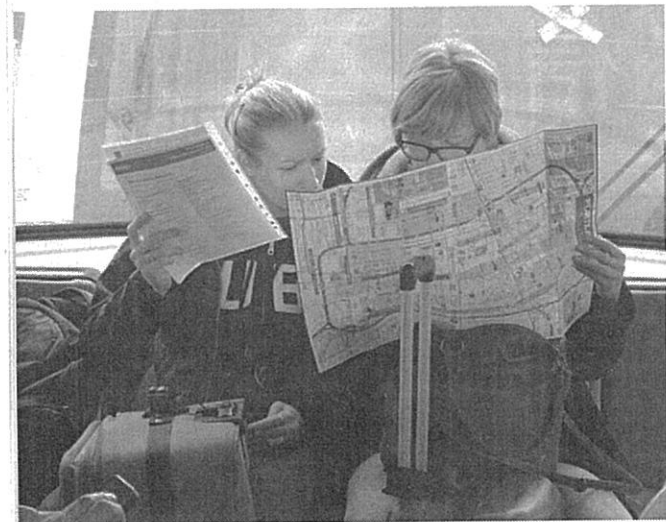
スタンプタウン・コーヒー・ロースターズはじめ、ポートランドのサイドウエーブコーヒーは情報誌などですでに紹介されている。さらにこれから日本でも注目されそうなのが、ドライブスルー専用の小規模カフェだ。中でも200店舗を超えた「ダッチ・ブラザーズ・コーヒー」は安くておいしいコーヒーが気軽に利用できる。メニューはコーヒー以外にもソフトドリンクや軽いスナックもある。

また、街中では駐車場の一角に一坪カフェが出現し、殺風景な駐車場をにぎわいの場に変えている。日本でもコンビニエンスストアのコーヒーと同様

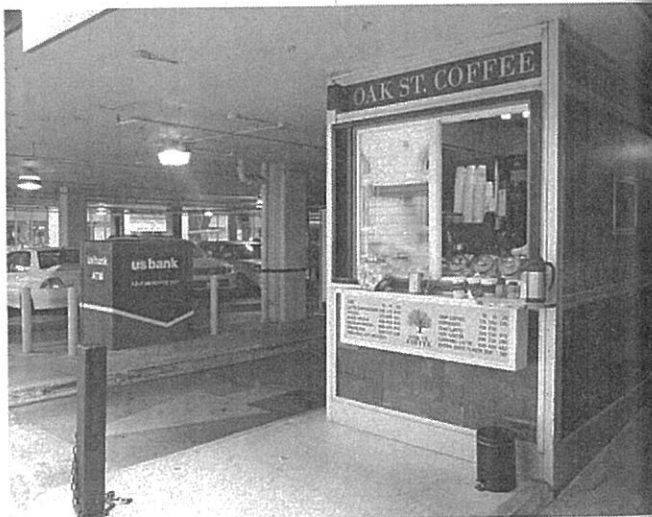


映画館で使われていた椅子を待合席にすることで味を出している美容室。多くの店がインテリアに中古の建材や備品を取り入れている

ドライブスルー専用カフェ業態で躍進する「ダッチ・ブラザーズ・コーヒー」の郊外標準タイプ店舗



ポートランドを訪れる観光客が世界中から急増している



中心街の駐車場にできた一坪カフェ。ドライブスルーだけでなく、歩行者も立ち寄り人気スポットになっている

まつもと だいぢ



マーケティング、プランニングから業態開発、プロデュース業務を推進。専門誌や業界紙での連載やFM番組のパーソナリティの他、大学でのマーケティング講義やIFIビジネススクールでは次世代商業施設戦略講座を担当。2015年経産省コト消費空間づくり研究会委員就任。近著に「最高の「商い」をデザインする方法」がある

にヒットする可能性もあろう。
 昨今、東京にはポートランドからカフェ、ドーナツ、パンケーキ、生活雑貨など多くの商品や店が押し寄せてきている。
 しかし、どこも何かふに落ちない。東京のどの店もはやってはいるが、何か大切なものを置き忘れているのだ。
 ポートランドでは、それらをブームとして捉えて追い掛け、単にモノとして消費しているわけではない。必ずそこにはコトがあり、ライフスタイルとして楽しんでいる。その点が日本とは大きく異なる。
 ポートランドを表面的にまねるよりも、生活文化創造の本質を学ぶことが大切ではないだろうか。